

令和4年度茨木市バリアフリー基本構想協議会 会議録

1 日 時

令和5(2023)年2月17日(金) 10時00分～11時30分

2 場 所

市役所南館8階中会議室

3 出席者

・委員

猪井副会長、伊良原委員、六條委員、山下委員、藤田委員、笹野委員、岩合委員、佐藤委員、井上委員、山下委員、吉岡委員、宮城委員、中野委員、蟹谷委員(代理：大台)、林委員、井阪委員、杉浦委員、森岡委員、小西委員、山崎委員、小田委員、秋元委員、藤田委員

・事務局

交通政策課、道路課、施設課、長寿介護課、障害福祉課、学校教育推進課、危機管理課

4 欠席者

塚口会長、住友委員、土山委員、塩野委員

5 開催形態

公開(傍聴人0人)

6 次第及び議事内容

- (1) 開会(建設部長挨拶)
- (2) 【議事1】：事業進捗状況について
【議事2】：その他

【議事1】：事業進捗状況について
事務局、交通事業者等からの説明

(猪井副会長)

事務局、交通事業者等から説明のあった事業進捗について、意見・質問等あれば伺いたい。

(山下委員)

学校のバリアフリー整備状況についてお聞きしたい。特に、避難所の観点から、トイレの整備状況等について教えていただきたい。

(事務局：施設課)

学校のバリアフリーの整備状況に関して、まず、エレベーターについては、各学校で、必要とする児童・生徒の入学にあわせて、設置を進めている。令和4年度は、設置対象校がなかったため、整備は行っていないが、現在令和5年度の整備に向けた設計を、小学校3校で進めている。

進捗状況としては、市内小学校が22校、中学校11校にエレベーターが設置されているという状況であり、今後も児童・生徒の入学にあわせて、順次整備を進めていきたい。

トイレについては、改修のタイミングに合わせて、避難所の観点からも間口を広げる等、是正を図りながら順次整備を進めていきたい。

(佐藤委員)

警察にお伺いしたい。昨年12月に茨木警察署職員と現地立会をした葦原小学校前の音響信号について、その後の進展を教えてほしい。

早期の設置は難しいと聞いているが、付近に小学校やコミュニティセンターがあることから、設置について前向きに考えていただきたい。

(警察)

現場状況を確認し、現在、設置の可否について、大阪府警察本部において検討しているところである。

(藤田委員)

心のバリアフリーに関連して、刑事事件の際、精神鑑定をされるが、「精神鑑定」という言葉は、精神障害者からすると嫌な気持ちになる。精神の鑑定ではなく、「殺意の確認」という表現にできないか。

精神という名前をつけると精神障害者への偏見や誤解が生じることから、そのようなことがないよう茨木市から全国的に発信していただきたい。

(猪井副会長)

市として対応できることとして、例えば、情報発信の際に配慮する等、検討いただけるか。刑事事件における「精神鑑定」について、警察の意見があればいただきたい。

(事務局：交通政策課)

市でどこまでできるか難しい問題ではあるが、関係機関と連携し考えていくべき課題であると思う。

(茨木警察 大台氏)

交通課の立場からはお答えしづらいところではあるが、意見があったことは警察内部で情報共有する。

(佐藤委員)

踏切内の点字ブロック設置について、現在、阪急電鉄及び JR 西日本が検討しているということで期待している。駅の点字案内板について、阪急電鉄、JR 西日本ともに、案内板自体の位置が分からないので、音声案内を付近に設置検討いただきたい。ホームドアについても早期に設置いただければと思う。

(阪急電鉄株式会社 山下委員)

踏切内の点字ブロックについて、踏切自体は阪急電鉄の管理であるが、設置は道路管理者が行うことから、今後道路管理者との協議を継続していく。

(伊良原委員)

交通事業者の教育啓発特定事業(心のバリアフリー)の取組として、接遇研修が多いが、職員個別のスキルだけではなく、誰もが公平なサービスを受けられるような環境作りが必要である。例えば、ホームドア等が設置されることにより、駅員の人員が削減され、人の手を必要とする障害者にとってはかえって不利益を被ることがある。

タクシー券助成の継続申請について、事業の効果測定のために、使い勝手に係るアンケートが添えられていた。

ジャパンタクシーは増えているが、気持ちよく利用できる事業者は限られている。

乗車拒否があるため、特定の事業者でしか利用できない。担当部署において、事業者等に対して、利用実績を確認できないか。助成制度のあり方を考える一助になるのではないか。

(事務局：障害福祉課)

タクシーチケットの制度については、障害者・要介護者を対象に、障害福祉課と長寿介護課において事業を実施している。

令和3年度から、タクシーチケットを2枚同時に使えるよう改正し、利便性の向上を図った。その後の状況把握のためにアンケートを実施したが、頂いたアンケートの結果については、今後のタクシー助成制度の参考とする。

意見を頂いた事業者等へのアンケートの実施については、ご意見として承る。

(事務局：交通政策課)

UD タクシーの件について、情報提供をしたい。茨木のタクシー事業者は、法人は5社で、163台、個人が30名程で30台程所有している。

UD タクシーへの転換については、令和4年度は9台となっている。令和7年度末までに、国の方針としてUD タクシー導入の目標が25%とされている。

市としても、市内のUD タクシー率25%を目指して、今後なにができるか検討する。

(笹野委員)

大阪モノレールの事業内容で、手話の研修を行っていると記載されているが、現地で手話で対応してもらったことがない。せっかく研修をしていただいているので、ありがとうだけでもかまわないので、手話で表現してもらえたらと思う。筆談が苦手な方もいる。

(猪井副会長)

事務局から大阪モノレールへ伝えていただきたい。

(六條委員)

事務局の説明資料について、施工前後だけでなく、施工中の写真を加える等工夫していただきたい。

事業進捗に関する歩道整備について、縁石の整備状況を教えてほしい。

資料6頁市道田中町西河原線について、一部歩道設置された区間に電柱があるが、車いすが通れる幅員を確保できているか。

学校のバリアフリーについて、校内や校舎間を繋ぐルートのバリアフリー状況について、来年度以降、報告事項を資料にしてご報告いただきたい。

(事務局：道路課)

縁石については、道路構造の基準や移動等円滑化基準に配慮し、設置している。

電柱については、関係事業者に位置などを確認し、有効幅員を確保したうえで、整備を進めている。

(事務局：施設課)

学校のバリアフリーについて、来年度以降、進捗状況等を資料で提示させていただく。

校舎間を繋ぐルートについては、校舎との接続部における高低差によりどうしても段差が生じることがあるため、まずは、バリアフリー化を必要とする児童がいる施設を優先して整備を進めている。

(岩合委員)

JR 西日本に、ホーム安全スクリーンの精度等について、お聞きしたい。

(西日本旅客鉄道株式会社 井上委員)

ホーム安全スクリーンは、センサーで人や人以外のものに感知するものであり、精度は高い。人以外のものに反応することもあるため、いかに人以外のものを排除できるか、現在、検討している。

(藤田委員)

以前に比べ、精神障害者が働ける環境が増えた。今後も積極的な雇用を進めてほしい。

(山下委員)

阪急総持寺駅は、時間によって無人化されているのか。

(阪急電鉄株式会社 山下委員)

昨年4月から営業時間を7時~22時までと変更した。駅の営業時間を短縮したものの、時間外でも電話の対応は可能である。

【議事2】：その他

(猪井副会長)

その他、何か意見や報告等あれば伺いたい。

六條委員から以下、説明

- ・学校近辺(穂積小学校、郡小学校)のバリアフリー状況について
- ・鉄道駅等における床面表示の好事例について
- ・鉄道駅におけるエレベーター工事等の情報提供強化について
- ・ユニバーサルデザインタクシーの意見交換会について

(猪井副会長)

学校周辺のバリアフリー化については、重点的に整備するエリアとして指定すべきか等、計画策定段階での議論が必要となるため、今後事務局でご検討いただきたい。

案内表示については、分かりやすいが、情報過多になりすぎるとかえって混乱を招くことになりかねないため、情報の戦略デザインを作っていくながら、壁面表示等も検討すべきであるとする。JR 西日本、阪急電鉄にご意見伺いたい。

UD タクシーについては、当事者の参加とともにスパイラルアップされていることを評価する。意見交換会の感想等について、事務局に話を伺いたい。

(西日本旅客鉄道株式会社 井上委員)

床面表示による情報案内は、樹脂系のものとタイルに分かれるが、それぞれ長所と短所がある。樹脂系は、様々な情報をイラスト等により記載することが可能であるが、剥がれやすく、ホーム等転落の恐れのある場所には設置ができない。一方、タイルは、維持管理しやすく、どこでも設置可能であるが、記載できる情報に限りがある。以上から床面表示は、材質に応じて、設置場所等を検討する必要があるということをご理解いただきたい。

(阪急電鉄株式会社 山下委員)

ご提案をいただきながら、技術の革新に合わせて、今後検討していきたい。

(事務局：交通政策課)

UD タクシー意見交換会では、3台のUD タクシーを間近で見ることができ、車イスのサイズによって、乗車時の車内のスペースの余裕や、転回のしやすさ等、異なることがよくわかった。

乗車体験後の意見交換会では、実際にUD タクシーに乗車しようとした際、ドライバーが車イスの方の乗車方法に慣れておらず、乗車まで時間がかかる場合もあるという意見を伺い、社員教育等、ソフト面での対応充実も必要なのだと感じた。

(伊良原委員)

バス停は、歩道をマウンドアップし、車いす利用者が乗降口と同じ高さで乗り降りできるようにしている。

タクシーについても、ジャパントクシーの普及に合わせてバス停同様、マウンドアップ型の歩道整備をするべきかと思う。乗務員によるソフト対策だけでなく、ハード面での道路整備も今後、是非推進していただきたい。

(猪井副会長)

茨木市は、当事者の方含めみなさんが興味を持ってバリアフリーの推進に取り組んでいた印象である。当事者の方が、最新のバリアフリーについて情報共有し、地域のご意見を受け賜わっていることは良いことである。事務局及び事業者は、この場で出たご意見等は持ち帰って、是非前向きに検討していただきたい。

(以上)